

シカ捕獲ネット落下装置の開発

機械金属工業技術支援センター

永本正義

兵庫県では野生のシカが増え続け、農林業への被害が深刻化しています。その対策として、ドロップネット方式によるシカの捕獲装置を開発しました。開発した捕獲装置は、遠隔操作によりネットを水平に落下させることができ、複数頭の捕獲に成功しました。現在、実用新案出願中です。

背景

兵庫県では野生シカによる被害をくい止めるため、兵庫県森林動物研究センターが中心となって対策に乗り出しました。そこで、考えたのが、図1に示すドロップネット方式によるシカの捕獲です。

本方式は集落に出没するシカをネット内に誘導し、シカに気づかれないよう遠隔操作によってネットを落下させ一度に複数頭のシカを捕獲します。地域の住民による捕獲を目指し、工業技術センターと森林動物研究センターが共同開発しました。

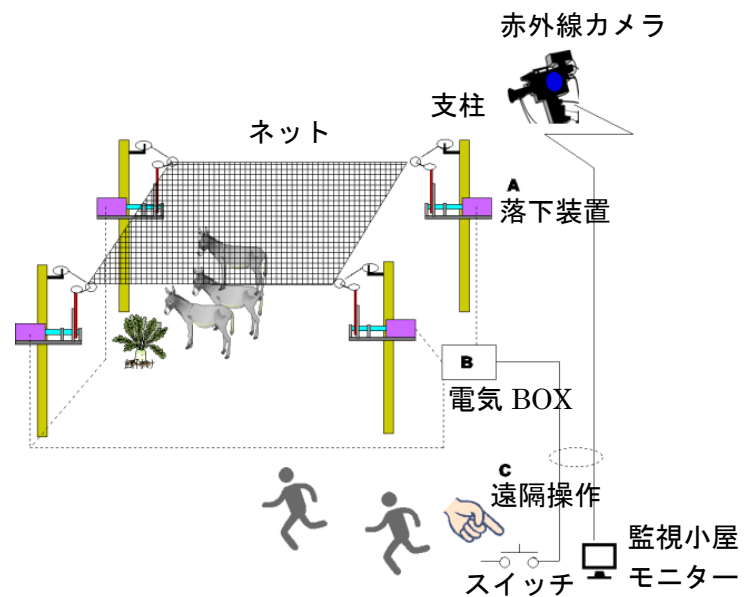


図1 ドロップネット方式によるシカの捕獲方法

成果

図2は地上高約3mの支柱先端に取り付けた落下装置です。この落下装置10台で24m四方のネットを保持し、200m離れた場所からネット落下装置に組み込まれた電気トリガー（ソレノイド）を同時に作動させてネット全体を水平に落下させます。電源にはバッテリーを利用して、商用電源のない場所でも使用可能です。

この落下装置は、捕獲ネットの支持および解放を確実に行えることが捕獲実験で実証できたため、現在、実用新案出願中です。

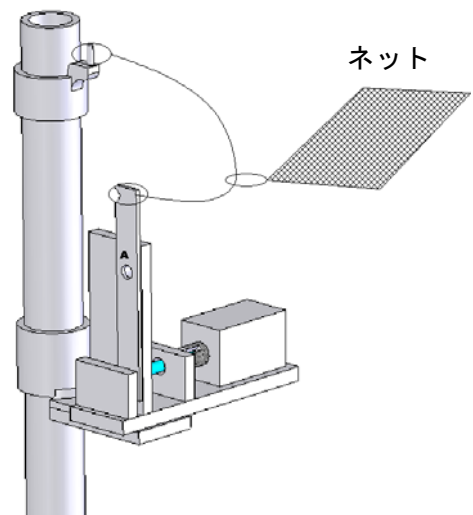


図2 ネット落下装置